

地域危険度マップ

これまでの大地震により、多くの家屋全壊被害が発生し、人命に被害が及んでいます。また、地震による山腹斜面の崩壊も発生しています。そして、地震後の豪雨により、崩れた土砂が要因となり土砂災害が発生し、二次災害を起こした例もみられます。

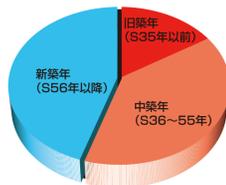
そこで、地域危険度マップとして、建物危険度マップと土砂災害危険度マップを作成しました。

実際に発生する地震は、想定した地震と異なることもありまので、予測結果であることを考慮して、ご家族や地域で地震防災対策について考えてください。

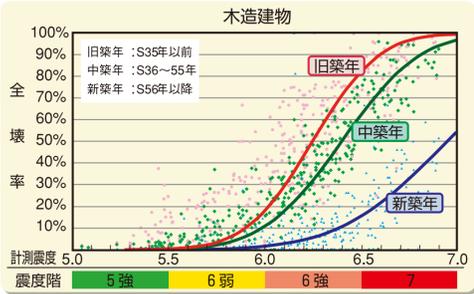
地震による建物全壊被害

揺れの大きさと建物被害(全壊率)の関係を木造建物を例にみると昭和55年以前(旧築年、中築年)の建物と昭和56年以降(新築年)の建物では、揺れによる建物被害の様相に大きな違いがあります。揺れによる建物被害は、揺れの大きさだけでなく、建築構造・建築年次によって被害の割合が異なります。

川辺町の年代別建物比率



川辺町では
昭和55年以前の建物が
50%以上



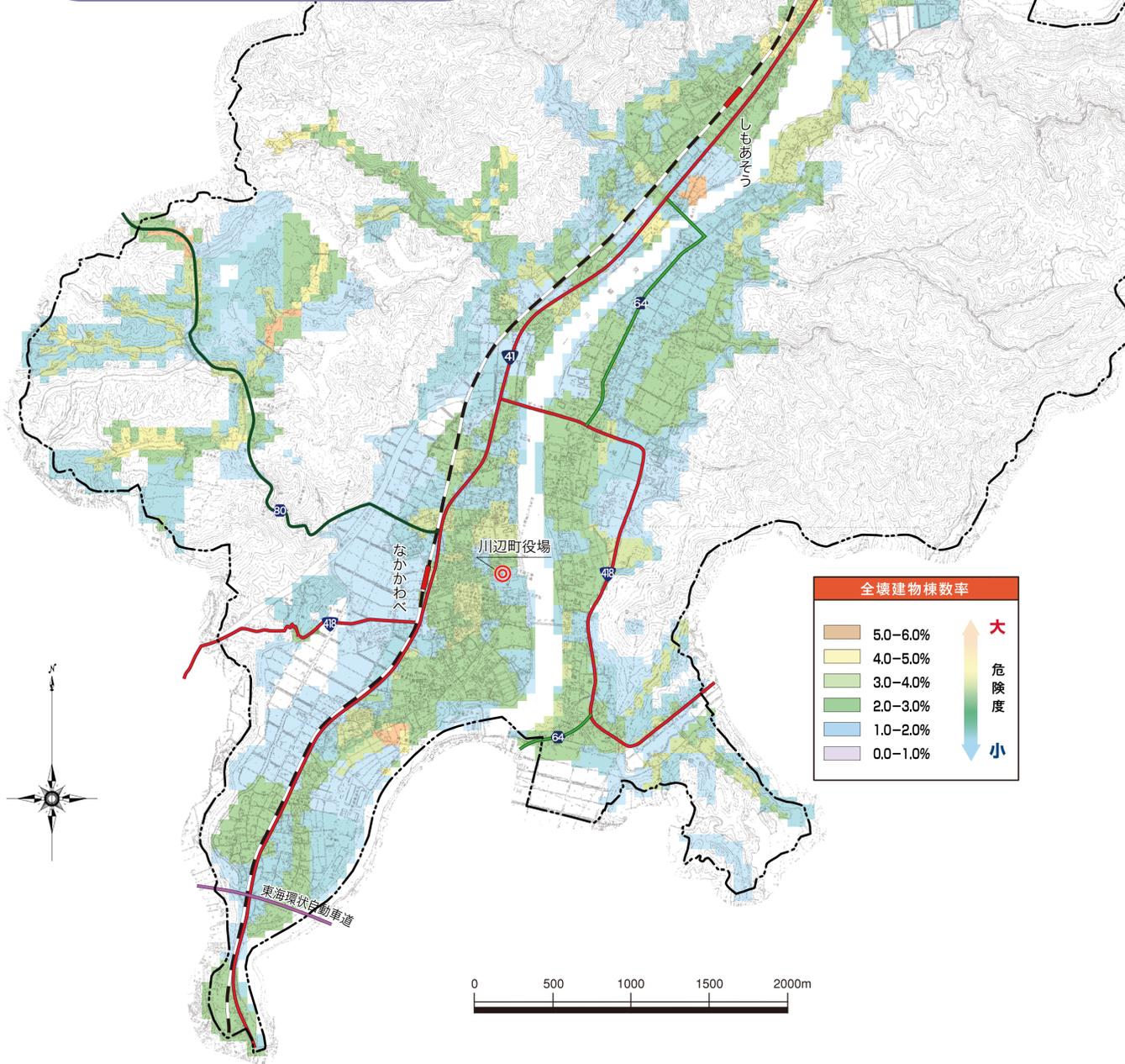
阪神・淡路大震災などの最近の地震による建物被害の実態
〔内閣府 地震防災マップ作成技術資料〕より引用・加筆

阪神・淡路大震災以降のM7クラスの地震と建物全壊被害

地震	マグニチュード	家屋全壊棟数
1995年1月 阪神・淡路大震災 (兵庫県南部地震)	M7.3	104,906棟
2000年10月 鳥取県西部 (鳥取県西部地震)	M7.3	435棟
2001年3月 安芸灘 (芸予地震)	M6.7	70棟
2003年7月 宮城県北部	M6.4	1,276棟
2003年9月 釧路沖 (十勝沖地震)	M8.0	116棟
2004年10月 新潟県中越地方 (新潟県中越地震)	M6.8	3,175棟
2005年3月 福岡県西方沖	M7.0	133棟
2007年3月 能登半島沖 (能登半島地震)	M6.9	684棟
2007年7月 新潟県中越沖 (新潟県中越沖地震)	M6.8	1,319棟

〔気象庁 被害地震資料〕より引用・加筆

建物危険度マップ



土砂災害危険度マップ



地震そのときは...

地震時の心得

通常地震の大きな揺れは1分間程度です。したがって、1分間の安全確保で冷静な判断・行動をとる事ができます。自分の身を守る事が第一です。

屋内にいるとき

- 家庭では
 - 家具を倒し、丈夫な机の下などに隠れてください。
 - あわてて外に飛び出さないでください。
 - 無理して火を消そうとしないでください。
- 人がおおびにいる施設では
 - 階段の前後の指板に当たってください。
 - 落ち物に注意し、あわてて出口には走り出さないでください。

屋外にいるとき

- 街中では
 - ブロック塼の倒壊等に注意してください。
 - 看板や崩れたガラスの落下に注意してください。
 - 丈夫なもののそばであれば、その中に避難してください。
- 山やけが付近では
 - 落石やけが前に注意してください。

乗り物にのっているとき

- 自動車運転中は
 - あわててスピードを落とさないでください。
 - バードランプを点灯し、まわりの車に注意を促してください。
 - 急ブレーキはかけず、緩やかに減速をおこなってください。
 - 大きな揺れを感じたら、道路の左側に停止してください。
- 鉄道やバスなどに乗車中は
 - つり革や手すりしっかりとつかってください。
- エレベーターでは
 - 扉が閉まるまで停止させて、すぐに降りてください。

(気象庁ホームページより)

避難場所の確認

災害に備え、ご家族で身近な避難場所を確認しておきましょう。

避難場所	大地震が発生した時に、大規模な延焼火災が発生するおそれがある地域について、避難地の避難者がさらに危険となる場合に避難者を保護するために必要な面積を有する学校のグラウンド、公園等を指定しています。
避難所	地震により家屋の倒壊、焼失等による被害を受けたときに、一時的に生活する学校の体育館、公共施設を指定しています。

避難場所一覧

施設名	避難所	避難場所	防災備蓄倉庫
北小学校	○	○ (グラウンド)	○
第二保育所	○	○	○
西小学校	○	○ (グラウンド)	○
川辺中学校	○	○ (グラウンド)	○
中央公民館	○	○	○
第一保育所	○	○	○
東小学校	○	○ (グラウンド)	○
B & G海洋センター	○	○	○
やすらぎの家	○	○	○
第三保育所	○	○	○
北部公民館	○	○	○
山崎グラウンド	○	○	○
下麻生グラウンド	○	○	○
鹿嶋コミュニティ広場	○	○	○

「三つの基本的な考え方」あなたは知っていますか？

- 「自らの命は自ら守る」(自助) 【個人、家庭】
- 「協力して助け合う」(共助) 【地域】
- 「(公助)「支援する」【国、県、町】

まず、災害に備えて日頃からの心構え(「自らの命は自分で守る」「地域はみんなを守る」)が大切です。

耐震診断について

住宅の耐震性について

木造住宅の倒壊率は古い住宅ほど高く、老朽化や耐震壁の少なさ、または、配置等のバランスの悪さが倒壊の要因であるといわれています。特に、昭和56年5月31日以前に着工された家や、住宅の構造、形、偏って大きな窓があるなどバランスの取れていない家では耐震性が低くなっています。心当たりのある方は、専門家による耐震診断を受けてください。

住宅の耐震診断が重要です

町では、安全なまちづくりを進めるために、以下の事業に対して経費の一部を助成します。

- 木造住宅耐震診断助成事業
- 木造住宅耐震補強工事助成事業

家の安全を確保するために

阪神・淡路大震災や新潟県中越地震では、亡くなった方のほとんどが木造家屋の倒壊や家具の転倒などによる圧死でした。あなたやご家族が犠牲にならないよう家具の固定など耐震対策を行きましょう。

家具の固定方法等

- タンス、食器棚や本棚については、中身が飛び出さないように、「さん」を付けましょう。
- 冷蔵庫、テレビ、ピアノなどは壁面に固定して、移動を防止しましょう。
- 窓ガラスや食器棚などのガラスは、飛散防止フィルムを貼りましょう。

地域のことは自分たちで守る

阪神・淡路大震災では、救出者の6割が、近所の方々の救助活動によるものでした。地域の防災力を高めるため、自治会などを中心に、自主防災組織を組織しましょう。

自主防災組織

役割分担を決めるとともに、地域のコミュニケーションを深めておきましょう。

組織防災訓練

地域で行われる防災訓練には積極的に参加しましょう。自主防災組織での自分の役割を確認しましょう。

避難時の助け合い

高齢者や障がい者の方々や安全な避難をするためには、地域の協力が重要です。日ごろから、ご近所どうしで話し合ってみましょう。

災害時要援護者とは...

お年寄り、乳幼児、障がい者、外国人など災害時に弱者の立場に立たざるを得ない人たちが大勢います。災害発生時における立場の弱い人々への協力や支援体制の確立は、地域社会の重要な課題の一つです。地域組織が一体となって取り組む必要がありますが、まず、皆さん一人ひとりが日ごろから災害時に弱い立場となる人々とコミュニケーションをはかり、連帯感を深めることが最も重要です。ケガをしたらあなたは「災害時要援護者」です。